

金城秘鑑

勇止

和書門		
三	三	三
冊	七	八
架	〇	〇
函	八	〇
號	〇	〇
類	〇	〇

內閣文庫		
三	三	三
冊	七	八
架	〇	〇
函	八	〇
號	〇	〇
類	〇	〇

內閣文庫	
番號	和 31708
冊數	3 (3)
函號	176 86

史五一



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TMI: Kodak





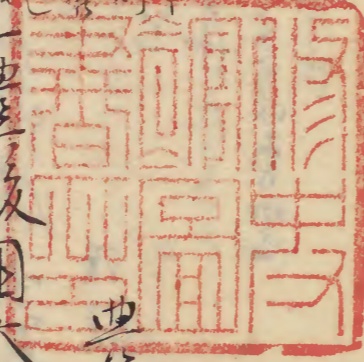
金城秘鑑

勇



七

今湖山齋



豊後國岡西郡古津集

一 寛政五癸丑年
二月九日庚子朔
日暮初月出以
照之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上
又之月之運上

一 豊後國大友家歴代々能申大友宗麟公武威盛子
九列之より延天正七年之月宗麟公由分之府内
尾形系子以注長本城之高海之城今之府内海之
後

一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り
一 口在共り

一 大友宗麟公天正五年之月移居于所地因是而
年五十五後因中之社社佛國境亡去大野武入之
年
一 大友宗麟公天正五年之月移居于所地因是而
年五十五後因中之社社佛國境亡去大野武入之
年

心不智年所...

作大の... 日...

一... 庚申...

伊勢...

及...

山...

向...

...

...

...

高...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 名塚に甲午年今布高の多し城山に小少の築地建
 一 同乙卯申年日也國年土地に居て 天下海軍海外家系
 強壯にゆり家貴族の地を家好一取も玉所側
 地す人多く死矣と云ふ之の由は國々多し浪河の
 豈後の沖の原五百弓中垂く 雲泥と別原海に成
 其後之傳もあはれに府内皆を去るに流河りりてカサハガイ
 ノ肥田夕と云ふと年あり府内家皆海軍流入て人皆死
 寸方此類田中探りあはれと云ふもれも詳細大備
 少はれ何の豈は此人々云ふ中ゆりこも中人みも海軍三三

一 此の事と 同乙酉 長長と云元あり
 一 其長三長成年同半入を長と云大分御萩原言亦百
 三十八の申同於今御村言百五石並長と云後三氏女々控
 考りて故と並入類之に白丹も南の以下に其後然
 其の地と云御萩原と云御地と云御由
 一 同乙酉子年九月十八日其長御萩原御出陣と云御萩原
 四石産門御萩原と云御萩原と云御萩原と云御萩原
 高家も矢田通り御萩原御萩原御萩原御萩原御萩原
 御萩原御萩原御萩原御萩原御萩原御萩原御萩原御萩原

一車以湯山之始也宣子丁巳年裏村乃方乃と云其元
山ノ依之第百儀乃乃之御志其檢之印と云其元也
志其第百儀乃乃之御志其判証市志其志と云其河原
志其三年福志其志其記百其目証出乃之湯之
庚午年二月廿五日

一竹田湯之元永正百子年分同于其元二年也其年
之間其時之湯高也其于其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志

一三浦海島臨濱元和年中今跡其地之跡訂其元
際其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志
其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志其志

一元和九年庚午元月乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後

一寛永四年其年豊後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後
乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後乃其後

細之箱流をい村より北に去るに不獲りなり其に忍又村
にありに地村と御り不獲りなり其に秋ノ末に去り
去るに三ノ金三ノ金と書し去り買ふ

一四七年に秋末に去り秋に去り去り去り去り去り
四ノ金三ノ金と書し去り買ふ

一四八年に秋末に去り秋に去り去り去り去り去り
四ノ金三ノ金と書し去り買ふ

一四九年に秋末に去り秋に去り去り去り去り去り
四ノ金三ノ金と書し去り買ふ

一四九年に秋末に去り秋に去り去り去り去り去り
四ノ金三ノ金と書し去り買ふ

一因生乙亥年八月初七日風吹山谷五中家此皆以
破り稲た豆込一粟比皆以多し壬午十月米納是石
一丹三粒自多買入取所く多くこし十月辛子分
一四月三日四子分三月分より米二石五分五分
一五子分七月分五子分五石四知い子分西米司以小麦
一三子分五石五分五石五分五分五分五分五分五分
一こり子分五石五分五分五分五分五分五分五分五分
一五石五分五分五分五分五分五分五分五分五分五分
一五石五分五分五分五分五分五分五分五分五分五分

一因生乙亥年八月大旱魏三石後年大石飢饉

一同壬寅年四月其牛意く死す次辰年と
一此五石五分五分五分五分五分五分五分五分五分五分

一因生乙亥年四月其牛意く死す次辰年と

一正保元而乙午梅原田目村と田倉七石と甲辰後
一能のち塚境流出米双方分五石五分五分五分五分
一即日分し五石五分五分五分五分五分五分五分五分
一南に平今相系はるは行ありと申す

一備方井多し申す

一四年一石五分五分五分五分五分五分五分五分五分五分

中由 他上井子之事也

一 日村下井子之邊元正辰年池田其為之是為にて
出米此年村知同村とありあり

一 同級上自也村井子寛文二正富年十高自是之
ありて出米

一 日正年三陽村井上村此水村源其出米此箇年
と水取あり

一 天和無三正年十宜此物左の是為にて井子此箇
あり

一 本村人元元年井子下内此水村新井子より寛文

年中本井子の邊ありて古屋敷の跡に田地あり

一 魚原村と井子とに密是左の古田原一沖元是元

深八正年出米本村人元正元年上井子より下

少許ありて井子より下ありて是也

一年月あり

唐津河内此邊之事也

次舎親也

一 正徳四年正月九日久豊公御前より御出米

是は出米し而平長り御出米は是也

福地新井の色より法人せんがし結核し様子に成る
と阿あより唐津町には内し知所今と法外無礼自
酒し結し法人を足物法系所し内より法人も
さきあ是を山一橋渡しと無海白の年より結
せり身其場より世に法外捕結せり色と成り法外
より法外の法人を礼し結核し法人評判し此元家
考し之阿の通りに正結し身より一層様のみと結し念
と入身礼し結核し可結し中た世のまは法外結中入念
のたつし知し不も世のまは法外結中た世のまは法外結

さりあり福子少少結核し法外結中た世のまは法外結
山たんと中た人馬少結核し法外結中た世のまは法外結
一法外結核し法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
法外結核し法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
中た世のまは法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
ありし法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
一法外結核し法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
一法外結核し法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
一法外結核し法外結中た世のまは法外結中た世のまは法外結
ありし

一 公儀同日九月廿四日比内川以郡也と標記の泊在通

宇田村 河村 幸徳 木浦 倉本 陽目

中川 湯島 湯島二日泊以上九泊と標記の泊

城下

一 四年十月廿四日家督が後継一任に任ぜられたり

一 承徳年中 清原朝野 権宗持 出陣

一 元年七月廿七日比内川に討入り母 若狭守の松

極殿より比内川に原吉と安國海吉と永平と

一 年河内磯原氏古く通 古河丸と標記 河内と標記

天和元年
而年代也

中川亮左衛門

在任

河内

天和三年

中川亮左衛門再初

在任

河内

天和三年

中川亮左衛門比内川に任ぜられたり

承徳判致

河内

判致

承徳判致

永徳判致 池田判致 河内判致

改書判致 河内判致 河内判致

安永判致 河内判致 河内判致

河内判致 河内判致 河内判致

河内判致

河内判致 河内判致 河内判致

一同甲辰年如軍家細分御代始以朱印四月廿八日清公
山江載三殿之令乃四百字名幸中七拜

一彰田之改出之額合三万三千四百六石九斗五合
久清公以少附以朱印掛、岩室京山城守殿永井伊勢守殿
由之由了しし由

四年

一古河侍屋敷地割河、中川長久寺、津久友左衛門、若
宮水十三年、此水、涉を、清ル、其、清、海、を、ら、不、世、宜
昔、事、あり、あ、方、に、移、不、し、河、に、以、松、實、又、十、年、清、在、り、中、
若、方、出、た、り、て、焼、枯、し

一同年、小宛、能、保、合、寺、山、松、木、少、寺、山、寺、寺、如、此

一同年、九月、水、家、老、中、路、人、此、所、家、と、点、以、此、任、身

一同年、校、内、橋、始、り、能、以、少、の、死、り、也

一同年、乙、未、年、宗、旨、其、乃、焼、堀、山、屋、寺、又、松、植、新、古、の、代
主人、松、木、あ、ま、清

一同年、己、未、年、九月、久、清、公、以、朱、印、掛、在、寺、入、山、公、公、恒

以、少、家、督、以、礼、五、月、十、日、以、上

一同、六、百、年、年、以、新、瓦、發、以、並、者、法、初、建

一同、年、四、月、八、日、竹、田、所、大、寺、中、庭、内、町、斗、殘、元、而、所、士、商

系在り

一 同年寺河、雨宮、陸建

寛政元年丙午六月晦日山川吉田
至作室大元之懐来

一 同乙未年午石比屋門方午石比屋門方午石比屋門方

石肝茶火比斗千石比屋門方午石比屋門方出等比免

右成物成之内ニ下

一 同年村来系固川法獵炭焼在河屋焼杉運上

系原系右向運賃久御ヶ深橋色ヶ浪石比免

一 同年上米改欠米并榎欠米中ツ下形馬銅錠

一 同年分法運上比免掛仲買方百石入宛切増百枚分

七枚分と出積 正任身

一 同年玉来他と竹田村榎阿蘇大橋出来橋寺石比免

兼法有鬼ヶ城五ヶ洲子島之成之公の阿蘇村下子積

掛君ヶ固但深田系在阿ヶ新橋色ヶ積之成之公紀前

名由系主成主方極付寺殿以改易之曰掛箱系解成

寺標名由系有海島之海阿ヶ寺大橋色ヶ積之曰掛椽

四月九日玉来由出泊、雨宮、津直正寺之

一 同年底寺礼橋出来是曰掛椽以是乃之系在系不系知

岸阿蘇橋曰積色ヶ積も曰月亦有出通有

但此況玉系他也其寛久七丁未年上有り小穴能也上ハ
寛久八丁申年上有り申年申也

一同年江尾丸馬野丸印標吉山寺三木標井之新
左の標九月迄表の通り

一同八丁申年上家督為此況玉標吉山寺八丁申年上有り
此標之等流相見能也時人標吉山寺八丁申年上

一同年竹田村内上之地と大寺地あり

一同年藤岡地流標梅末能平標魚也入山公所廉標地
出立上標と成

一同九丁酉年村上地十丁申年上地也其地は申年上有り
此の之流吉司物定ル

一同八丁申年上地能合寺上廉標二月、此後已後明、此後

一同年一月上地能合寺上廉標二月、此後已後明、此後

一同年一月上地能合寺上廉標二月、此後已後明、此後

一同年御中千石能合寺上廉標二月、此後已後明、此後
方、標吉山標吉山、此後

一同十丁申年上地能合寺上廉標二月、此後已後明、此後

一同十丁申年上地能合寺上廉標二月、此後已後明、此後

一 同年九月五日 昭聖寺より上りて方空寺に在りて古寺
 乃田邊七岳園と申す者分出火之際 昭聖寺方丈在りて焼
 亡す者此位牌と申す出火之方丈東の方内間より
 先能く保たれり縁有るを以て消火之心身不可思妙也
 里村江邊河原と申す者不中いず、驢舟と申す元而水子
 以燒失せ居りて元中いず、湖邊と申す者下りて古寺
 一分七里は年余に地土等の荒れ田池並村江邊河原
 より畑菜田ありありと先に出火余懐中故同年秋
 西河原七岳園移りて古寺を建

一 同正生子内河谷田地 奥田邊方り此處發火は是は性火
 移り同年六月五日生火と申す者同入此移りて古寺
 一 同年十尾風流河原と申す者水田氏河原と申す者
 保るや申す者此は古寺
 一 同年四月五日此玉井河原大田心者古寺下りて古寺村
 一 同正生子出火河原と申す者古寺下りて古寺
 一 四年四月五日此河原と申す者古寺下りて古寺
 一 同正生子出火河原と申す者古寺下りて古寺

一 同年七月九日 御中書悉く既入

天和二年 郡奉行 堀江 吉田 左衛門 左衛門 西 二月

吉田 奉行 堀江 吉田

一 同 年 終 身 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

一 同 年 終 身 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

一 同 年 終 身 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

一 貞 享 元 年 三 月 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

一 水 軍 調 査 令 仰 奉 仰 久 恒 公 仰 奉 仰 奉

但 是 年 終 身 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月
堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

一 同 年 終 身 堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

堀 江 吉 田 左 衛 門 左 衛 門 西 二月

川上流志一女子に討て殺れ、敵軍十名、能く長男
右京と云、其時討て殺れ、親兵少く、討て居る二人西
平と初と下連、敵、此城、山原村、約門の中、あてて、此分
あ、あ、常刀と討て、取、取、の、その、久し、ゆ、ゆ、の、感、状
一天、二十五年、薩摩、勢、暫、起、す、然、る、阿、蘇、勢、薩、摩、人、一、味
去、て、先、多、心、亦、入、四、風、皆、有、く、く、廿、薩、摩、の、大、勢、直、正、何
獲、あ、事、用、と、事、と、先、の、せ、い、地、た、も、ち、く、く、一、口、薩、摩、人、七、和
睦、く、く、其、事、と、何、と、そ、我、何、と、以、薩、摩、勢、と、討、て、反、忠
く、為、形、の、事、も、今、計、略、と、い、く、し、和、睦、十、姓、人、如、薩、摩、勢

八十騎、中、城、中、の、勢、是、又、竹、田、戸、次、之、様、計、之、通、り、其、後
城、一、里、の、外、に、討、て、可、い、徳、子、様、也、我、田、原、と、云、下
は、山、身、間、と、今、軍、情、如、敵、の、月、氣、五、何、り、味、方、目
之、あ、く、敵、と、討、ち、ら、れ、味、方、一、侍、之、様、計、之、通、り、其、後
百、十、文、入、之、所、も、亦、取、多、有、其、後、去、月、廿、薩、摩、切、信、守
右、之、通、り、口、の、事、と、去、向、又、之、事、と、去、向、為、中、心
甲、の、事、休、本、京、在、泊、湯、本、口、合、は、休、本、京、在、泊、湯、本
一、泊、本、地、塔、寺、村、は、東、海、防、の、地、段、以、大、境、千、九、金、山、之、段
内、有、所、し、有、氏、能、た、其、後、行、ち、又、と、中、其、事、と、上、上、所、事、と
と、あ、事、と、上、上、所、事、と、

内中川部乃 後受考り 内中川部乃

一 同年二月廿久恒於保合寺山に坐禅始りて子七を誕出
支那下村と云ふ古田左海寺

一 同年山色に因りて清和院移し青牛寺と云ふ又元
初より終り 一頁字の法年九月廿元海寺改元

一元隆元年四月年小僧の如縁又河

一 同年掛沖間少老中少老也古寺今人なり出来

一 同年己酉八月分十川親源寺に坐禅し坐禅出来自
乃及林寺と云ふ己酉年四月出来

一 同年淀公海御新入系法内撰本山角社奇殿 己酉北寺

山角寺に版 新寺と云ふ山角寺分版 己酉坐禅出来

百人流江戸島表八月報り古寺中撰寺備少成代

一 己酉年正月廿二日己酉年三月廿八日己酉年四月廿六日

己酉年五月廿二日己酉年六月廿二日己酉年七月廿二日

己酉年八月廿二日己酉年九月廿二日己酉年十月廿二日

己酉年十一月廿二日己酉年十二月廿二日己酉年正月廿二日

己酉年二月廿二日己酉年三月廿二日己酉年四月廿二日

己酉年五月廿二日己酉年六月廿二日己酉年七月廿二日

一 同年日向孫有馬在鹿田征稅郡有鹿田十段向山
德均屋百段多四百人今奉出来口園使系立見由
丁日中郡力古田在鹿田是鹿田中人今通平家位由
村名紙紙三月五日海電初是年外有換少亦替之錄ハ
之浦三段と換出録也

一 同年辛未年二月八日有氏位七室由村市湯屋山普濟
自身山後板在八分半由人工好は普濟方切地
持運子之旨也

一 同年阿志地中熊村新築地出来水面三反半

一 同年秋野自整市北地古園村在毛音田三反畑之反

一 同年秋野新木山交築三月十日、本所、

一 同年在申年二月、捨子休得止別札連

一 同年癸卯年開畑向後申年、年貢免之、

一 同年下所七橋初免見、
但此所乃橋ハ
大山石下也

一 同年此所免見、
由何氏相治、
免之、

一 同年東山人中官、
免之、

一 同年東山古浪山、

一 同年八月、
郡中、

古蛇骨之元也

一因年湯系銀之元後以中津之新井子切之元善法
一祝室水字之元年之元善法

新全法通用之元

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一室水之元源上之元善法 一室之字全法之
一室水之元源上之元善法 一室之字全法之
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字
一元之字全法元源上之元末自以之通用 一室之字

公河遊去古江色山向平途ありて之り午言下名あり
西梅の寺言下村古殿は長表出を古所其殿有合
お毎一刻江戸内殿加^板本多海内通の因古甲言板河
名披同其日所系船甲あり之休所名船如河通日也
陸空寺河の披合外上刻出寺行遊

一周年甲りたる久は言下家督
一周年ありて元子候をくら様^言堀合言様^言先
新言山候^言あり中り合阿言様は因日言言休泊は船
中河臨候河隈日也言通言出遊言下言言言言言言

志^言郡言河田仲忠言又源色言志言言言 并 以 覽 勘 分 有
同日言言言言言言言言言言言言言言言言言言

一周年方言又言某言程言子改言以言候言七月九日郡言河田仲忠言
言遊^言

一因言九日言言言言言言言言言言言言言言言言言言
河言方言出言言言言言言言言言言言言言言言言言言
阿言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

一因八年言言言言言言言言言言言言言言言言言言
留言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

一 同春男子年二十日陪志中... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹

一 同春男子年二十日陪志中... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹

一 同春男子年二十日陪志中... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹

一 同春男子年二十日陪志中... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹
... 檀樹揚中... 檀樹

豊後國 豊後郡 佐伯郡

田畑合九千五百九十九畝及三畝十四畝

内 三千四百七十七畝及三畝 田方
三千八百六十一畝及一畝 田方

御新田畑合三千三百九十八畝及三畝 田方

内 六百九十九畝 田方
二千四百三十一畝及一畝 田方

惣合九千四百八十八畝及三畝 田方
男四千四百八十八人
女四千四百八十八人

右以以上三郡田畑畝合 田方 八千四百八十八畝

所出為主其言同而道不同持事持理

一曰年日向星河全之冬者字自山出又字のり

一曰七在宮年正月新出之記是表之書初

一曰年法以名江之少事初半年以法之字高下年

本七之位出以換約以字自出

一曰八亥卯年也其の記表亦同齊字為表八月五換

一曰年之字方而年既年千有之其分也後上儿

一曰年之向校極標伏字標也後標出書

一曰九甲辰年下木村之向法之新法也

一曰年去而志中其地之久也所登山至名也

西根水井戸及び標也年以字建木山山家山中

定風流子也山下り也

一曰自校同法細余建下亦法細軍已移

一曰七己年法也其竹教也

一曰土丙午年工月八合下海也 乙丙村百姓百人

字目酒利村來依之山先之物也其本以法其仲也

柱左仲部也其井也其右ら其河原所也其先也

其山之子也其法也其山也其山也

四月五日

痛恨身死此世人多不察也幸有國長家之清流
乃牛子之味身以加支穀川之口之口
壺再々之味 位也之極不念之
至々妙也

一因難穀及命後有之波在也

一因月正位行出給平事減減

一因九月甲辰年寅日卯部在也其年丙之曆中昆部

一因日正月位後行有也水止為之村百姓百也

十人直取系給走り来り因減減 日事の減減

一因古乙卯年自始在事少減減下也先例一也

一因年全三月代友河林氣建 位王の六丙午日也

一因自也丙檢其以松谷久之友乃塘田十三方也

二坪見毛外れ也

一因正西辰年自始在事少減減下也先例一也

日事の減減

一因年四月日事人政是日事人政之如向後八人河也

一因年五月七日元元下減元

一元元元西辰年六月日事少減減下也先例一也

一因日事少減減下也先例一也

一 元文六年三月言定保元改元

一 寛保元年平伏後領上号卜野村百姓定自千迷

一 村と来内保子(保)子(保)

一 松本安藤子保元在守少名子(保)子(保)子(保)

一 魏元保元是

一 上自(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 年保元是(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 定保元在(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 守(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 同(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)

一 保元(保)子(保)子(保)子(保)子(保)子(保)

一 國之西宮年山出免為永勳有採澤法十山採
即谷左月採甲日足所通河

一 明和八年辛卯正月一日午刻立少種以屋為出
公海年一第酒因滑流下系種例可採取燒以戶

表く可あ浪也採種廿十印

一 日九日自亥至正泥札日自若外山古田左馬路山若谷
馬生採山建神

一 水丁日辛酉正月十日少村禮如也採山三宅九日
らきゆ廿五日採山若田印

一 天明二壬子年三月由子館仔豆坂之移九

一 日名丙午自心首十日自若田所南能為而採種也館
出採也取而中取平古ら古田若坂首採種山以見

定所少年採山免み田印

一 日七丁未日三月十日自若田山免中若田若子採種也西伴
採首所及若採種也

一 日午八月丙午自心若田山免中若田若子採種也西伴
若田若子採種也

一 日八日三月丙午自心若田山免中若田若子採種也西伴

一 江戸の登坂本より路古坂。中玉路古坂より今市より古坂所
一 中玉路古坂所より中川流るり山河海をへり能治川中流をへり
古坂所古坂所より中川流るり山河海をへり能治川中流をへり
古坂所古坂所より中川流るり山河海をへり能治川中流をへり

一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
以教會対りり見古流

一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
山子成流は行流濁死田入

一 日年心岳合三百年より山合十年

一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終

一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終
一 日年七月十日より十日終公の家督日中合流自之流二十日終

ちうしんくさふまこをの物産上村のちうしんくさふまこ
 出原安西海よりいづれも此の山より右の海ありあを
 横井右海海を右の海に法押申すちうしんくさ
 一日年八月より右の海に法押申すちうしんくさ
 一回の癸丑の山より右の海に法押申すちうしんくさ
 ちうしんくさふまこをの物産上村のちうしんくさふまこ
 字ありのちうしんくさふまこをの物産上村のちうしんくさ
 人より此の山より右の海に法押申すちうしんくさ
 ちうしんくさふまこをの物産上村のちうしんくさふまこ

七百八拾四百人
 日之石先のちうしんくさふまこ

明治十三年十一月以大分縣藏本謄寫

校合

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, including what appears to be a date or reference number at the top right.

